ココにも発見、

RING!RING!プロジェクト

競輪補助事業社会貢献レポート

一般社団法人 社会応援ネットワーク

被災地の学校へ元気を届ける「がっこう応援便り」の制作をRING!RING! プロジェクトが支援

昨年秋に発行された小冊子「がっこう応援便り」。インターネットでも誌面を読むことができる（本文末尾のURLを参照）。

ネットワークの代表で冊子の編集長を務める高比良美穂さん。

校舎に押し寄せた土砂と瓦礫が津波の恐ろしさを如実に物語る。スタッフは何度も東北地方を訪れ、被災地の教育現場を取材した。

社会応援ネットワークでは、震災復興の支援活動として、昨年9月、小冊子「がっこう応援便り 復興支援号」を岩手・宮城・福島の沿岸部の小中学校に無償で配布した。本冊子の編集・制作にはJKAの補助金が役立てられている。編集長の高比良美穂さんは言う。

「いま、被災地で本当に必要とされている情報をピンポイントで伝えたい。全国からの応援の声を被災地に、現地のありのままの状況を全国に、双方の橋渡しを目指します」

そもそも、姉妹紙である「子ども応援便り」の制作に携わっていた高比良さん。東日本大震災を受け、昨年4月に号外「被災地支援号」（左下写真）を制作。各界から続々と届けられた被災地への応援メッセージが後押しとなった。さらに自分たちに何かできることがあるのではと考え、同年6月、編集部の有志を集めて同ネットワークを設立した。

震災を受けて急遽発行した「子ども応援便り」の号外。

「冊子のテーマは、取材を進める中で自ずと決まりました」

発災直後の教育現場を取材した際、60～80人ほどの生徒を1人の教員が受け持たなくてはならない現状を目にした。自らも被災者である教職員たちの奮闘を目の当たりにして「先生を励ます内容の冊子」を企画したという。被災した生徒の心のケアに関する教職員からのニーズをふまえ、特集のテーマは「子どもの心のケア」とした。イラストを中心に、教師が児童・生徒へ語りかけるような文章で誌面を作り、実際の指導に利用しやすいよう工夫を凝らした。冊子には他にも、女子サッカー日本代表の澤穂希選手へのインタビューや、阪神・淡路大震災を経験した兵庫県の教職員らの声を掲載。発行後、被災地の教職員から「授業に役立った」「澤選手の記事をコピーして生徒に読ませた」と大きな反響が寄せられた。

同ネットワークでは、次号の制作も計画中。「補助金制度のおかげで、被災地が求める情報をスピーディに届けることができました。ですが、本当の意味での復興はこれから。次号は、家庭内での子どものケアについて取り上げたい」と意気込む。

一般社団法人 社会応援ネットワーク HP：shakai-ouen.com

RING!RING!プロジェクトは、競輪・オートレースの補助事業です。